

介護福祉士の研修型人材育成に関する 課題と今後の改善策の検討

—— ファーストステップ研修に関するインタビュー調査から ——

牛 田 篤

I. 研究の背景

日本は、2025年から35年の10年間において、人口動態で最も多い団塊の世代が75歳から85歳となる。その際、介護保険サービスの利用者は、短期間で急増すると推測されている。介護保険サービスは、ヒューマンサービスであることから、そこで働く、介護人材の量と質の確保が課題となる。本研究では、介護人材の質および、介護福祉士に焦点を当てる。

今後の介護人材について、量的確保という観点からは、外国人、潜在的有資格者、他分野からの再就職など、多様な介護人材の確保が重視されている。しかしながら、介護保険サービスは、ヒューマンサービスであるため、介護職としての倫理観、認知症や障害の理解、コミュニケーション能力、生活支援技術、介護過程の展開、多職種連携に関する実践的な能力など、専門職としての知識と技術が求められる。ただし、今後の課題ではあるが、介護職は無資格者でも勤務できる状況は存在する。前述の状況があるため、近年の介護福祉士は、介護人材のリーダー的存在を担うことが期待されている。そのため、図1の通り、「まんじゅう型」の介護人材から、「富士山型」の介護人材を目指している。介護人材の「まんじゅう型」の要因については、主に「専門性が不明確・役割が混在」、「将来展望・キャ

六八

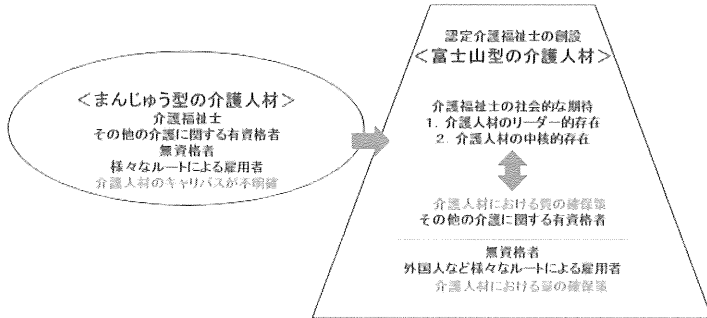


図1 「まんじゅう型」の介護人材および「富士山型」の介護人材の位置づけ

リアパスが見えづらい」という課題が挙げられている^{注1}。

前述の課題改善に寄与するため、公益財団法人日本介護福祉士会では、介護福祉士の専門性について「利用者の生活をよりよい方向へ変化させるために、根拠に基づいた介護実践とともに環境を整備することができること」と示している。さらに具体的には、①介護過程の展開による根拠に基づいた介護実践（利用者の自立に向けた介護過程を展開し、根拠に基づいた質の高い介護を実践する）、②指導・育成（自ら介護等に関する知識及び技能の向上に努めるだけでなく、自立支援に向けた介護技術等、具体的な指導・助言を行う）、③環境の整備・多職種連携（利用者の心身その他の状況に応じて、福祉サービス等が総合的かつ適切に提供されるよう、物的・人的・制度的等、様々な環境整備を行うとともに、福祉サービス関係者等との連携を保たなければならない）を挙げている。しかしながら、介護福祉士の取得ルートは、多様であるため、全ての介護福祉士において、

注1 平成2015年8月20日の介護人材確保地域戦略会議第3回資料において、厚生労働省では、「介護人材確保の総合的・計画的な推進」として「まんじゅう型」から「富士山型」へのビジョンを示し、具体的な施策検討が進められている。

介護福祉士の研修型人材育成に関する課題と今後の改善策の検討

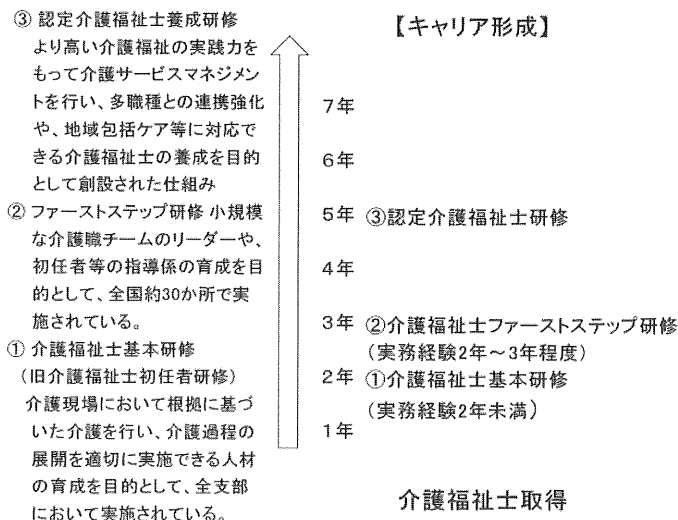


図2 公益社団法人日本介護福祉士会の示す生涯研修におけるキャリア形成体系
出典：第11回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会平成29年9月26日「求められる役割に適切に対応できる介護福祉士の育成方策」公益社団法人日本介護福祉士会 会長 石本淳也委員提出資料を基に筆者作成

前述を体系的に学び、介護福祉士養成校の教員などから一定時間数の教育を受けている状況ではない。

また、将来展望・キャリアパスでは、2016年8月以降から、日本介護福祉士会の生涯研修体系においては、介護福祉士基本研修、介護福祉士ファーストステップ研修（以後、ファーストステップ研修）、認定介護福祉士として位置づけられている。それらの研修について、図2の通り示されて現在に至るが、「富士山型」の構築に繋がっているかは、受講者実態から課題が山積しているといえる。それらの課題の背景には、介護福祉士取得者にとって、介護福祉士取得後のキャリア形成においては、社会福祉士や介護支援専門員など、他の資格を取得して転職する傾向ことが実態として複数存在し、一つのモデルケースとして、社会的に認識されていることであ

表 1 介護福祉士ファーストステップ研修のカリキュラム

領域（合計時間数）	科 目	時間数
ケア領域 (72 時間)	利用者の全人性、尊厳の実践的理解と展開	16
	介護職の倫理の実践的理解と展開	16
	コミュニケーション技術の応用的な展開	16
	ケア場面での気づきと助言	24
連携領域 (48 時間)	家族や地域の支援力の活用と強化	16
	職種間連携の実践的展開	16
	観察・記録的的確性とチームケアへの展開	16
運営管理基礎領域 (80 時間)	チームのまとめ役としてのリーダーシップ	16
	セーフティマネジメント	16
	問題解決のための思考法	16
	介護職の健康・ストレスの管理	16
	自職場の分析	16

る。そして、牛田（2018, 2019）では、特別養護老人ホームにおける介護福祉士のキャリア形成と実践に関して、介護福祉士ファーストステップ研修および求められる介護福祉士像 12 項目の意識について、郵送調査から傾向を明らかにし、ファーストステップ研修の受講意識と課題抽出を論じている。その際、受講意識について、「よくわからない」から何ともいえないという回答理由を複数得ている。介護福祉士ファーストステップ研修のカリキュラム内容は、表 1 の通りであるが、「知らない（しらない）」と回答理由も複数得ている。また、郵送調査であり、調査内容に関して、選択式および自由記述によって実態把握し、分析と考察しているため、研究の限界が生じている。前述の先行研究からは、日本介護福祉士会における介護福祉士のキャリア形成研修、主にファーストステップ研修について、今後求められる介護福祉士にとって必要な研修内容ではあるが、受講実態、受講の必要性および研修の知名度および認知度の低さ、受講するための環境などという観点では、課題は山積しているといえる。よって、介護人材

介護福祉士の研修型人材育成に関する課題と今後の改善策の検討

の「将来展望・キャリアパスが見えづらい」ということに繋がっていると
いえよう。だからこそ、それらの課題改善に対して、寄与する研究を進め
ることが重要である。

そこで、本研究の目的は、先行研究にて協力を得た A 県内特別養護老
人ホーム 19 施設に勤務する介護福祉士 260 名の中から、インタビュー調
査に同意を得た介護福祉士 20 名を対象とし、介護福祉士の研修型人材育
成に関する課題と今後の改善策について検討する。

II. 目的

本研究の目的は、介護福祉士の研修型人材育成に関する課題と今後の改
善策について検討することである。そこで、本調査では、特別養護老人ホー
ムに勤務する介護福祉士を対象とし、ファーストステップ研修の受講に関
する意識と、その理由を把握し、それらから検討する。

III. 方法

対象：先行研究（牛田：2018, 2019）にて協力を得た A 県内特別養護老
人ホーム 19 施設に勤務する介護福祉士 260 名の中から、インタビュー調
査に同意を得た介護福祉士 20 名を対象とする。なお、本研究を進める際、
前述の先行研究から得たファーストステップ研修に関する受講意識と、そ
の理由について、インタビューによる追跡調査を行い、より実態を探るこ
とによって、受講課題を考察する。そして、本研究では、介護福祉士の研
修型人材育成に関する課題と今後の改善策について検討する。

調査方法：15 分程度のインタビュー調査を行う。手順は、①インタビュー
ガイド、介護福祉士ファーストステップ研修ガイドライン、研究依頼文を
用いて本調査の事前説明と同意を行う。②インタビューガイドを用いた調
査を行う。その際、IC レコーダーによる録音の可否を確認する。録音可

能な場合は、録音内容を逐語録として作成する。録音不可の場合は、聞き取り内容を記録する。③逐語録と聞き取り内容の記録として得た記述を分析する。本研究では、インタビューガイドを用いながら一定の質問に従って面接を進めるが、研究協力者である対象者の状況や回答に応じて面接者が質問の表現、順序、内容などを状況に応じて変えることのできる半構造化面接を用いる。本研究において、半構造化面接を用いる理由は、構造面接よりも若干の自由度を合わせ持つことによって、一定の方向性を保ちつつも、対象者の語りに沿って情報を得ることが可能になるという利点があるからである。本研究の目的は、ファーストステップ研修の受講課題を探り、受講促進モデルを提言するため、半構造化面接を用いる。その調査で得た回答については、テキストマイニングを用いながら共起ネットワーク分析によって探る。テキストマイニングを用いながら共起ネットワーク分析を行う理由としては、前述の通りである。

研究期間：2016年12月1日～2019年8月30日

調査内容：①ファーストステップ研修の受講希望について、②受講希望に関する回答の理由についてインタビューする。また、本調査は、半構造化面接であるため、インタビューガイド以外のことであっても、対象者からの質問や疑問に対応し、回答を否定しない。できる限り遮ることなくインタビューを進行する。

調査場所：所属長に同意を得て、対象者の所属する又は特別養護老人ホーム内にて実施する。

分析方法：逐語録または、聞き取り内容の記録について、記述統計およびKH Coder2を用いて共起ネットワーク分析を行う。

倫理的配慮：本研究に関する倫理的配慮は、倫理審査委員会の承認を得て行う。その際、以下の通り、研究協力者に不利益が生じることのないように行う。倫理的留意①調査実施に際して、富山福祉短期大学の研究倫理委員会より承認を得ている（承認番号：福短H28-014号）。先行研究にて協力を得た特別養護老人ホーム施設長宛に書面又は口頭にて事前説明と同意

を得る。②その後、該当者に対するインタビュー調査の協力依頼を行い、調査協力することが可能な対象者の人数を把握する。③該当者となる各特別養護老人ホームの介護福祉士に対しては、口頭又は書面にて事前説明する。その際、本調査に関する協力の可否によって、本人に不利益がないことを説明する。④対象者に対して、インタビュー調査の開始前に本研究の同意を口頭にて確認し、本人の同意とする。その際、本人の自由意思にて調査を中止や延期することは可能である。本研究の協力を中止したい場合、同意撤回書を用いる。④調査後、同意を得た施設や本人が特定されることのないようにアルファベットを用いて本調査のデータを取り扱う。⑤対象者のプライバシー保護に留意し、データ管理責任者を決めて一元的に管理を行う。

IV. 結果

本調査から、受講希望8名、どちらともいえない9名、非受講希望3名の計20名から、受講意識の理由に関して回答を得た。受講希望者8名の理由に関して、受講希望者の総抽出語数は366語であり、異なり語数は50語であった。分析に使用する語は366語（異なり語数50語）とした。異なり語数50語について、出現回数の平均は7.32語であり、標準偏差10.41であった。これらの頻出語の内、出現回数の多い20語の抽出語とその出現回数は、表2の通りである。

出現回数の多い語は、「受講」「ファーストステップ研修」「関係」「勤務調整」「経験年数」「必要」「研修」「制度上」「土日」等であった。

どちらともいえない9名の理由に関して、語の置換処理を行いながらテキストマイニングによる分析を行った結果、総抽出語数は488語であり、異なり語数は72語であった。分析に使用する語は488語（異なり語数72語）とした。異なり語数72語は、出現回数の平均6.78語であり、標準偏差6.99であった。これらの頻出語の内、出現回数の多い20語の抽出語と

表 2 ファーストステップ研修の受講希望者の抽出語と出現回数

抽出語	出現回数
受講	26
ファーストステップ研修	10
関係	6
勤務調整	6
経験年数	6
必要	6
研修	4
制度上	4
土日	4
3年以上	2
リーダー	2
機会	2
給料	2
勤務	2
今	2
今後	2
時間	2
手当	2
知る	2
中心	2

表 3 ファーストステップ研修の受講どちらともいえない者の抽出語と出現回数

抽出語	出現回数
ファーストステップ研修	26
研修	19
受講	17
高額	12
施設	10
ない	4
リーダー	4
勤務	4
受講時間数	4
状況	4
職員	4
全額負担	4
内容	4
半額補助	4
費用	4
負担	4
迷惑	4
フロア	2
加算	2
家族	2

その出現回数は、表 3 の通りである。出現回数の多い語は、「ファーストステップ研修」「研修」「ファーストステップ研修」「受講」「高額」「施設」「ない」「リーダー」「勤務」「受講時間数」「状況」「職員」「全額負担」「内容」「半額補助」「費用」「負担」「迷惑」等であった。

六二

非受講希望 3 名の理由に関して、語の置換処理を行いながらテキストマイニングによる分析を行った結果、総抽出語数は 270 語であり、異なり語数は 64 語であった。さらに、分析に使用される語として 270 語（異なり

表4 ファーストステップ研修の非受講者の抽出語と出現回数

抽出語	出現回数
ない	20
リーダー	8
受講	8
研修	6
受ける	6
事後課題	4
事前課題	4
時間	4
取得	4
修了	4
家事	4
ファーストステップ研修	2
一日	2
介護	2
介護福祉士	2
希望	2
休	2
研修受講	2
行う	2
施設	2
受講時間数	2
小規模	2
職員	2
大変	2
二日間	2
年齢的	2
費用	2
望む	2

語数 64 語) が抽出された。分析に使用する語は語 (異なり語数 64 語) とした。異なり語数 64 語は、出現回数の平均 4.22 語であり、標準偏差 3.47 であった。これらの頻出語の内、出現回数の多い語の抽出語とその出現回数は、表 4 の通りである。出現回数の多い語は、「ない」「ファーストステップ研修」「リーダー」「受講」「研修」「受ける」「事前課題」「事後課題」「時間」「取得」「家事」等であった。

さらに前述のファーストステップ研修受講に関する希望者 8 名、どちらともいえない 9 名、非受講希望 3 名の理由について、各表の抽出語を含む文章を分析対象として共起ネットワーク分析した結果、希望理由では、図 3 の通りである。「勤務」「機会」や「リーダー」「制度上」「必要」、「今」「知る」、「経験年数」「3 年以上」「関係」「ない」、「土日」「中心」「研修」「勤務調整」、「給料」「手当」に共起が強く見られた。どちらともいえない理由では、図 4 の通りであり、「ファーストステップ研修」「受講」「高額」

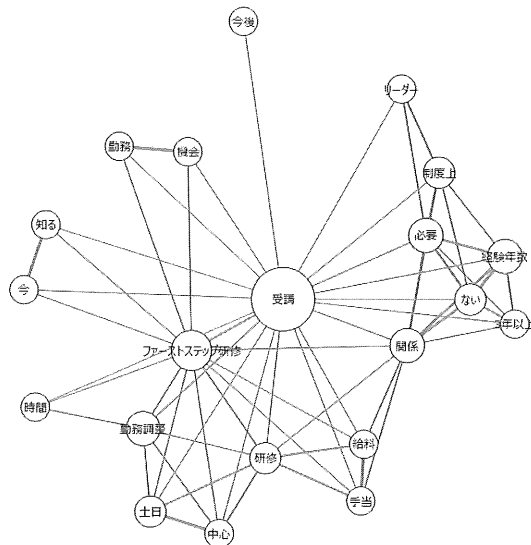


図 3 ファーストステップ研修受講希望者の理由における共起ネットワーク

介護福祉士の研修型人材育成に関する課題と今後の改善策の検討

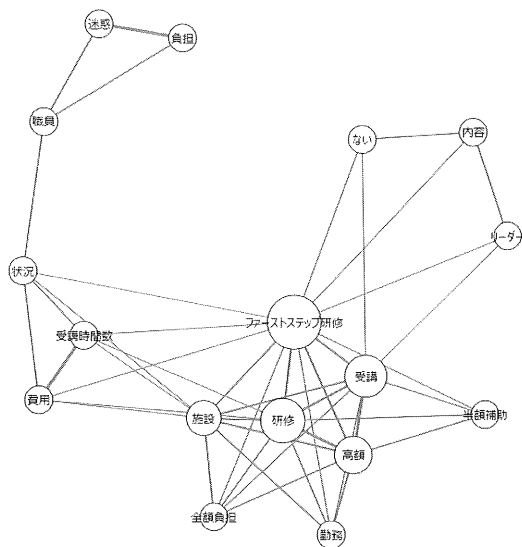


図4 ファーストステップ研修どちらともいえない者の理由における共起ネットワーク

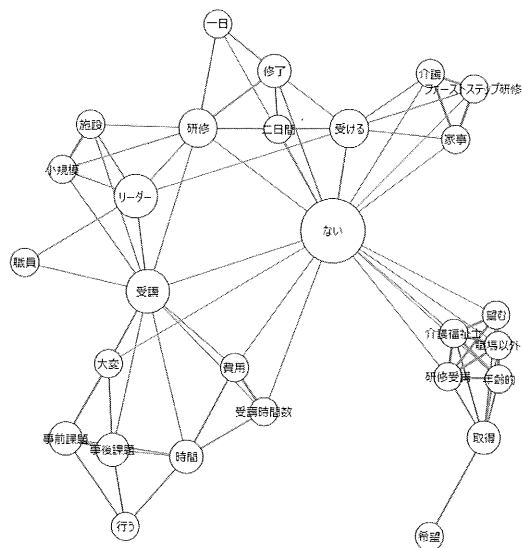


図5 ファーストステップ研修受講非希望者の理由における共起ネットワーク

や「研修」「受講」「高額」、「職員」「負担」「迷惑」、「受講時間数」「費用」との共起が強く見られた。また、非受講者では、図5の通りであり、「ファーストステップ研修」「介護」「家事」や「一日」「二日間」「修了」、「費用」「受講時間数」、「事前課題」「事後課題」「大変」、さらに、「職場以外」「研修」「受講」「年齢的」との共起が強く見られた。

V. 考察

本結果から、希望理由では、出現回数の多い語は、「受講」「ファーストステップ研修」「関係」「勤務調整」「経験年数」「必要」「研修」「制度上」「土日」等であり、「勤務」「機会」や「リーダー」「制度上」「必要」、「今」「知る」、「経験年数」「3年以上」「関係」「ない」、「給料」「手当」、「土日」「中心」「研修」「勤務調整」に共起が強く見られている。

特別養護老人ホームに勤務する介護福祉士にとって、希望者は勤務として機会があれば受講したいという視点を把握できたと考える。一方、ファーストステップ研修について制度上又は、リーダーとして必要であるか、どうか、ということを考えており、受講の必要性という視点を把握できたと考える。さらに、ファーストステップ研修の内容を詳しく知る機会がなく、本調査に協力することによって、今知ったからこそ受講したいという視点、ファーストステップ研修が介護福祉士取得2年から3年程度という記載であるが、介護福祉士としての経験年数3年以上、経験年数が関係ないのあれば受講したいということを考えており、受講の条件という視点を把握できた。さらに、給料や手当になればという考え方もあり、修了後の利点という視点も把握できた。一方、ファーストステップ研修の開講日が土日中心の研修であるため、勤務調整ができればと考え、できなければ、受講希望と回答するが、調整できなければ、難しいという勤務調整という視点を把握できた。よって、受講希望者においても、「であれば」という様々な条件付きの状況があり、さらに受講課題は存在し、勤務調整が主な課題と

なっていると考える。それらの視点から、日本介護福祉士会および各都道府県の介護福祉士会に求められることは、一人ひとりの介護福祉士に周知するのみでなく、特別養護老人ホームの施設長および管理者に対して周知し、受講する利点を説明することによって、知名度と認知度を上げることが重要であることが示唆された。

そして、どちらともいえない理由では、出現回数の多い語は、「ファーストステップ研修」「研修」「ファーストステップ研修」「受講」「高額」「施設」「ない」「リーダー」「勤務」「受講時間数」「状況」「職員」「全額負担」「内容」「半額補助」「費用」「負担」「迷惑」等であり、「ファーストステップ研修」「受講」「高額」や「研修」「受講」「高額」、「職員」「負担」「迷惑」、「受講時間数」「費用」との強い共起性が抽出されている。特別養護老人ホームに勤務する介護福祉士にとって、ファーストステップ研修は、10万円程度で開講している受講費が高額であるため、受講費の高額という視点や200時間という研修であるため、受講時間数と費用という視点が把握できた。その際、受講時間数という視点については、勤務調整の課題と繋がる状況を把握できたと考える。それは、他の職員への負担や迷惑をかけるという視点であり、200時間の研修の受講に対して、どちらともいえないという理由であることが把握できたことである。さらに、費用については、高額であるため、個人負担での受講ではなく、施設の全額負担又は半額負担を望むという受講料の補助という視点が把握できた。よって、それらからの視点から、どちらともいえない受講者にとって、受講課題は、受講時間数および勤務調整、受講費用ということが示唆された。

また、非受講者では出現回数の多い語は、「ない」「ファーストステップ研修」「リーダー」「受講」「研修」「受ける」「事前課題」「事後課題」「時間」「取得」「家事」等であり、「ファーストステップ研修」「介護」「家事」や「一日」「二日間」「修了」、「費用」「受講時間数」、「事前課題」「事後課題」「大変」、さらに、「職場以外」「研修」「受講」「年齢的」との強い共起性が抽出されている。特別養護老人ホームに勤務する介護福祉士にとって、

非希望者は、ファーストステップ研修が小規模リーダーに関する研修であるため、自らはリーダーにならないというため、研修目的と自身の状況において不要という視点や、介護や家事があるためといった家庭の都合という視点が把握できた。さらに、それらに関連して、ファーストステップ研修は、200時間の研修であるため、一日や二日間で修了しないという、受講時間数の視点、受講費用の視点、事前課題や事後課題の大変さを理由として受講しないことが把握できた。また、介護福祉士の中でも、ファーストステップ研修に関わらず、研修は、年齢的に職場以外での研修は受講しないという視点も把握できた。よって、受講しない者にとって、様々な理由があり、それらの課題は、受講希望者や、どちらともいえない者と共通する視点もあると考える。一方、受講しない者の理由からも、今後の介護福祉士の研修体系や、研修による人材育成を考える上では、重要な視点が示唆された。1日8時間の研修を上限とした場合、勤務先や家庭から離れて、継続的に100時間受講することは、明らかに容易ではないということが示唆された。

VI. 結論および本研究の限界

本結果および考察から、ファーストステップ研修の受講希望、どちらともいえない、非受講希望者の回答理由から、ファーストステップ研修の受講課題の視点が可視化された。その際、さらにファーストステップ研修の受講課題を探るのみでなく、特別養護老人ホームに勤務する介護福祉士にとって、職場や職場外での環境、その環境における他者へ配慮する思考、その環境における研修費用の自己負担額、研修時間、研修内容および研修対象者に関する思考について可視化された。先行研究においてはファーストステップ研修の受講課題として、研修知名度や認知度を課題改善することを検討することの重要性を述べている。しかし、ファーストステップ研修に関する受講課題は、研修内容に不備があるというよりは、研修費用、

修了するまでの研修時間数および勤務調整は、主な課題であるといえる。そして、本研究の目的は、介護福祉士の研修型人材育成に関する課題と今後の改善策について検討することである。

よって、介護福祉士の研修型人材育成に関する課題と今後の改善策は、介護福祉士取得後の研修については、各研修の受講時間数と、受講の利点の明確化が重要であると考え。一つの研修において、受講時間数を増やすことは、一回の受講費用は、高額化するといえよう。そこには、講師などの人件費や会場費の都合上から避けることは困難であると考え。同時に、勤務調整ということから、現在の特別養護老人ホームにおける人材不足の実態では、ますます受講者は厳しい状況となると推察する。だからこそ、人材育成に関する研修、ファーストステップ研修のようなキャリア形成研修に関しては、受講修了する利点と、必要性の明確化が重要となる。今後もそれらが不明確であるならば、介護福祉士取得後の研修型人材育成は、継続性と定着性において限界があり、介護福祉士取得の要件を厳格化すること、具体的には、実務経験ルートの見通し、福祉系高校ルートには実務経験の追加、もしくは介護福祉士養成施設ルートによる教育ルートによる取得の一本化を検討する必要があると考え。前述のような検討がなければ、介護福祉士取得後に、200時間のファーストステップ研修、600時間認定介護福祉士をキャリア形成研修として、展開することにも、先々限界が生じるといえよう。そして、介護福祉士取得後の研修型人材育成においては、内容を精査し、外部による研修会場のみではなく、法人単位でのデリバリー方式による開催という展開も検討がなければ、継続的に一定数の受講修了者は確保できないと推察する。

最後に、本研究については、介護福祉士基本研修、認定介護福祉士、その他様々な介護福祉士の知識や技術に関連する研修受講者などからの聞き取り結果から、多角的に考察していない点は、本研究の限界点である。

引用参考文献

- 1) 厚生労働省『介護福祉士及び社会福祉士制度の在り方に関する意見』社会保障審議会福祉部会 平成 18 年 12 月 12 日
(<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/12/dl/s1212-4b01.pdf>)
- 2) 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 (平成 20 年 9 月)『介護職員のキャリア形成支援の制度化に向けた提案 小規模チームのリーダー養成等を目的とした「介護福祉士ファーストステップ研修」』
(http://www.shakyo.or.jp/news/081113_2.pdf)
- 3) 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 (平成 21 年 3 月)『小規模チームのリーダー養成を目的とした介護福祉士ファーストステップ研修 ガイドライン～研修の企画、展開の指針』
(http://www.shakyo.or.jp/research/05_pdf/final_1ststep.pdf)
- 4) 中司登志美 (2009)「介護福祉士現任者教育の抱える課題 介護福祉士ファーストステップ研修(広島県)をふまえて」『福祉健康学科研究 福山平成大学健康福祉学部紀要』4 巻 1 号, 1-8
- 5) 岡田史 (2011)「介護福祉専門職育成における専門職団体の役割と課題—新潟県介護福祉士会会員の研修ニーズに関する意識調査から」『新潟医療福祉学会誌』10 巻 2 号, 4-9
- 6) 厚生労働省『福祉人材確保対策検討会における議論の取りまとめ』第 1 回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成 26 年 10 月 27 日資料 3
(http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000062880.pdf)
- 7) 厚生労働省『介護人材の機能とキャリアパスについて』第 6 回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成 28 年 10 月 5 日資料 1
(http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000138946.pdf)
- 8) 厚生労働省『介護人材の機能に応じた育成のあり方について』第 7 回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成 28 年 11 月 14 日資料
(http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000142796.pdf)
- 9) 厚生労働省『介護人材における介護福祉士の役割に係る意見書』第 7 回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成 28 年 11 月 14 日参考資料 2 (公益社団法人日本介護福祉士会 会長 石本淳也)
- 10) 厚生労働省『介護人材の機能とキャリアパスの実現に向けて』第 8 回社会保障

介護福祉士の研修型人材育成に関する課題と今後の改善策の検討

審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成 28 年 12 月 13 日資料 1

(http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000145742.pdf)

- 11) 厚生労働省『求められる役割に適切に対応できる介護福祉士の育成方策』第 11 回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成 29 年 9 月 26 日石本委員提出資料（公益社団法人日本介護福祉士会 会長 石本淳也委員）(https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000178750.pdf)
- 12) 公益社団法人日本介護福祉士会(2014)『介護福祉士基本研修テキスト』中央法規
- 13) 野田由佳里・太田貞司・及川ゆりこ・鈴木俊文(2017)「ファーストステップ研修修了者追跡調査による研修効果及び介護職チームのリーダー・中堅介護福祉士の役割に関する研究」『聖隷クリストファー大学社会福祉学部紀要』15 巻, 81-95
- 14) 太田貞司(2017)「介護職の職能集団の形成とチームリーダー」『京都女子大学生活福祉学科紀要』12 巻, 15-27
- 15) 牛田篤(2018)「特別養護老人ホームにおける介護福祉士のキャリア形成と実践に関する研究—ファーストステップ研修と求められる介護福祉士像 12 項目の意識調査から—」『福祉健康学科研究 福山平成大学健康福祉学部紀要』13 巻 1 号, 39-46
- 16) 牛田篤(2019)「介護福祉士ファーストステップ研修の受講意識と課題抽出に関する研究—介護福祉士を対象とした共起ネットワーク分析から—」福祉健康科学研究第 14 巻: pp.13-20, 2019

(本学専任講師：介護概論)